



2021年度 年主題〈共に喜んで～すべての歩みの中～〉

0・1・2歳児 10月主題 「やってみる／たのしい」 3・4・5歳児 10月主題 「はずませて」

月のねがい

- ◎保育者と一緒にさんびかを歌おうとする。
- ◎戸外で身体を動かす遊びを楽しむ。
- ◎友だちや保育者と楽しんで身体を動かす。
- ◎自然の中のおもしろさや季節の変化を感じ、様々なものに触れながら楽しむ。

月のねがい

- ◎聖書のお話を聴く機会が増え、神さまの愛(みこころ)を共に感じる。
- ◎ひとりでも友だちとでも、心と身体をはずませ夢中になって取り組み、深めたり、創り出すことを楽しむ。
- ◎躍動の時と静まる時の両方を、豊かに心地よく過ごす。
- ◎絵本や物語をゆっくりと楽しむ。



今月の聖句 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

民数記6:25
食欲の秋、運動の秋、勉強の秋と、何をやってもやりやすい季節がやってきました。コロナ禍の制限はあつたものの、中でも私たちは賢くたくましく生き続けています。一人で過ごす時も、皆と一緒に過ごす時も、創意工夫を凝らして生活できるようになってきました。こども園でも、健康管理には細心の注意を払いつつ、子どもたちが成長する場が提供されています。親や大人たちは温かいまなざしで子どもたちを見守り、その成長を育んでいきます。行事も多い季節だと思いますが、その一つひとつが守られますように。「シャローム」という言葉をどこかで聞いたことがあるかもしれません。日本語の「こんにちは」、英語の「ハロー」に匹敵するユダヤ人の挨拶の言葉です。「あなたがたに平和・平安があるように」という願いのこもった挨拶の言葉です。今月の聖書の言葉として選ばれている旧約聖書の民数記第6章25節の御言葉は、その許になったものだとされています。自分の家族や親しい友人を温かい目で見守る。その思いを言い表している言葉でもあります。けれども、そのように愛する人々を見守っているのは私たちだけではありません。その背後にあって神さまが見守っておられる。神さまが私たち一人ひとりを見守り、恵みと祝福を注いでくださっている。そのことに私たちの心を向けさせてくれる挨拶の言葉が「シャローム」であり、今月の聖書の言葉なのです。「主なる神さまが御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。」
協力牧師 池田基宣



10月の行事予定

6日(水)	運動会予行練習・弁当日
16日(土)	第64回運動会
18日(月)	1号児振替休日
19日(火)	避難訓練
21日(木)	秋の遠足(3才児以上)
22日(金)	秋の遠足(0・1・2才児)
27日(水)	おにぎり・スープパーティー

11月の行事予定

6日(土)	父母会わかさ公園ゴミ拾い
9日(火)	10、11月生誕生会
10日(水)	給食バイキング
17日(水)	持久走試走・弁当日
19日(金)	避難訓練
20日(土)	持久走大会・弁当日・園内研修
27日(土)	めぐみ誕生会(10、11月生)

みんなでオリンピック 運動会!

2学期が始まり1か月が過ぎました。9月半ばより子どもたちも運動会に向けて、それぞれおけいこが始まっています。朝の自由遊びの時間には、2階から年長児が練習する太鼓の音が…。その音を聞きながら園庭遊びを楽しむ0～4歳児の子どもたちです。遊びながらも太鼓の音を聴いて、「あっ!」と音に触れたり、実際に太鼓を叩く姿を見て憧れを持ったりと、運動会ならではの刺激もたくさんです。体操後の入室前には、よいこの門から各クラス、かけっこのポーズとスタート練習! まだまだフライングも多いですが、各クラスを見ていると、かわいいポーズから凛々しいポーズに変化があり、とても成長を感じるところです。また、運動会に向けて違う靴を履いてくると、「見て見て! この靴早く走れるんだよ!!」と嬉しそうです。



今年度の運動会のテーマは「みんなでオリンピック～笑顔でも涙でもみんな金メダル!～」です。4月には種子島でも聖火リレーが行われ、子どもたちと沿道から応援グッズを使って声援をおくりました。コロナ感染症の影響で1年延期となった東京オリンピック。その中でもスケートボード女子の岡本さんは、メダルこそ逃したものの、競技後には各国のスケートボード仲間が岡本さんを囲み、プレイを讃えているのが印象的でした。子どもたちにも1番になれなくても、最後まで頑張る気持ち、友だちを思いやる気持ち、悔しい気持ち…。みんなで様々な気持ちを感じ合い、伝え合う運動会となれば幸いです。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止で制限のある運動会となりますが、たくさんの声援をいただければ幸いです。みんなで楽しめますよう宜しくお願いします。 主任 伊豆元

子どもが望むことか否か

昨年の今頃は台風もまだ十号だったので、十六号だと多く感じますが、今までのところ接近数は少ないようです。十月の台風は例年強くなりがちで油断大敵です。まずは、運動会が好天の中で無事行われたいことを祈ります。先日講演の中で、一時期よく耳にした「モラトリアム」という言葉を久しぶりにお聞きしました。元々は「支払猶予の期間」とのこと。心理学者エリクソンが人間の発達段階を八つに区分し、「青年がアイデンティティを確立するまでの猶予期間」を「モラトリアム」と呼んだわけですが、人間が健全に成長するためにとても重要な期間ともいえます。ただ、その時期を超えても自立を回避し、大人になろうとしない青年のことを「モラトリアム人間」と精神科医の小此木啓吾氏は名付けました。思春期に顕れる自己を見失った状態が長引く要因の一つは、幼児期の過剰な干渉に影響を受けていることもあるようです。

「過保護」は子どもを育てる上で悪い育児の代名詞のように言われます。「あの子は過保護で甘やかされたので、自分勝手に協調性がない」など。しかし過保護はほんとうにわがままな子どもにしてしまおうのでしょうか。子どもは自分の望んでいるいろいろなことを思いどおりしていかなくてはならず、ある時期にはもう満ちたりと、どんどん自立していくものでも、欲求が長びくくんじやないか、自立が遅れるんじゃないかと思いがちですが、かえって満ち足り自立が早いとも言えます。子どもを育てるために大切なものは、近しい者との基本的信頼関係、そして自分が存在することへの自信の獲得です。そのためには自分の欲求がいつも満たされ、受けとめられ、愛され保護されている確信が必要です。本人が望むことを十分に与えることに過ぎることはないでしょう。一方、「過干渉」はどうでしょうか。幼児期になると子どもはいろいろなことに興味・関心を持ち、自発的に行動するようになります。何度失敗しても叱られても、またすぐ忘れて果敢に挑戦していきます。そこで、親は心配で見えたら口や手を出します。子どもはやらねばならぬことばかりやらせざるに、自分がやりたいことよりも、やらねばならぬことばかりに、関係が強くなります。そこで親の多くはうまくいった場合、褒め言葉や品物を買って与え、過剰な褒めをあげます。幼児期からそうしたことをされすぎると、評価に過敏になります。親や大人の評価にばかり心が奪われ、褒められることばかりして、叱られるようなことをしない子になります。やらなければならぬことに対する一定の干渉は必要ですが、何事も過ぎたは及ばざるがごとしです。子どもたちがもつとも活発な活動を展開する実りの時期です。ゆつくりと周囲の自然を観察しながら落ち着いた時間を満喫したいと思えます。大きな行事の運動会を迎えますが、何より子どもたちのしたいことを通して、いのちはずむ時となることでしょう。早寝・早起き・朝ごはんをよろしく願います。

学園長

自分のしたいことや、すべきことを見つけて取り組み、達成感を味わう

友だちとの遊びが楽しめるようになってくると、友だちと共通のめあてを見つけながら遊びや生活をすすめるようになっていきます。あまり自分のしたいことは表に出てこない傾向にあります。しかし、友だちと共通のめあてを見つけていくためには、自分のしたいことがはっきりとあり、みんなで遊びや生活をすすめるためにすべきことを感じている必要があります。そこで、この時期のねらいを「自分のしたいことや、すべきことを見つけて取り組み、達成感を味わう」としています。自分のしたいことやすべきことを見つけるということは、自分の役割を見つけることでもあります。ただし、役割は人から与えられたものでは意欲がでてきません。「みんなでこんな遊びや生活がしたい。」という思いのもと、「こんなことができる」「だから私はこうしたい」というものが、役割になっていくでしょう。「したいこと」と「すべきこと」と「できること」が一致するものを見つけたとき、大人も子どもも充実感を持って力を発揮することができていくのです。



著：松本信吾 (広島大学附属幼稚園)